

## 平成 15 年度 経営方針

### ・認識すべき経営環境

我が国経済は、一部に持ち直しの動きが見られるものの、輸出が弱含みに転じており、株価の低迷、金融システム不安の再燃、米国経済の減速懸念など、不透明感を増している。

このようななか、将来の展望が開けるよう、先に決定された総合デフレ対策の実施に加え、税制改革や財政出動など他の政策手段も視野に入れた柔軟かつ大胆な経済運営が望まれる。

北陸地域についても、厳しい景況が続いているものの、北陸新幹線をはじめとする高速交通基盤や情報通信基盤など社会資本の整備が進展しつつあり、産業クラスターの創生に向けた産学官の連携のもと、環日本海交流のゲートウェイ機能を果たす魅力ある地域として中長期的な発展が期待される。

電気事業においては、総合資源エネルギー調査会・電気事業分科会において、小売自由化の範囲拡大など今後の電気事業制度のあり方について審議が続けられており、14年中にも方向性が取り纏められる予定である。制度の見直しに当たっては、14年6月に成立した「エネルギー政策基本法」に謳われているように、安定供給の確保や環境への適合が考慮され、お客さま利益を最重点に、発送一貫体制を基盤とした我が国に相応しい電力供給システムの構築を期待する。

こうしたなか、今後、エネルギー間競争はますます熾烈化していくものと予想される。加えて、近い将来、小売自由化範囲の拡大によって販売電力量の大宗が競争に晒されるなど、市場構造そのものがこれまでと大きく変容することも想定しておかなければならない。

一方、最近の相次ぐ不祥事により、企業の社会的信頼が大きく揺らいでおり、企業倫理の徹底が強く求められている。

また、地球環境問題については、政府が14年6月に京都議定書を受諾しており、電気事業者としても、CO<sub>2</sub>排出削減に対する自主目標の達成に努力することはもとより、循環型社会の形成に向けた廃棄物対策や省エネルギー、新エネルギーの一層の推進が要請されている。

### ・経営の重点方針

企業活動を行っていくには、社会からの信頼が何よりも重要であり、特に原子力については技術的安全に加え、社会的信頼と安心への取組みを強化していくことが喫緊の課題である。

このため、14年9月に設置したコンプライアンス推進委員会を核として、同時に制定した「行動規範」を従業員一人ひとりが遵守するとともに、時代の変化に適合した意識改革と資質の向上に努め、談論風発する企業風土のもと、より一層信頼される企業を目指す。

また、エネルギー間競争の激化や電力小売自由化の進展など厳しい経営環境に迅速に対処するため、14年10月に実施した電気料金引下げを活かした個別提案型「技術営業」の展開による販売拡大と、経年石油火力の廃止など更なる徹底したコストダウンを柱とする経営改革を加速し、価格競争力を一層強化する。

一方、将来にわたる電力の安定供給や環境保全の社会的責務を果たす観点から、志賀原子力1号機の安全・安定運転に徹するとともに、当社最大のプロジェクトである志賀原子力2号機の建設を着実に推進し、地球に優しい循環型社会の実現に向けた取組みを強化する。

このため、今後も引き続き信頼され、選択される企業を目指し、北陸電力グループの総合力を結集して、以下の重点方針に迅速果断に取組み、「低廉・良質・安定・クリーン」な北陸電力ブランドのさらなる充実を期す。

1. 信頼される企業風土の構築
2. 販売拡大に向けた体制強化
3. 価格競争力強化を目指した更なるコストダウン
4. 循環型社会への取組みなど環境保全の推進

## 重点事項

### 1. 信頼される企業風土の構築

- (1) 責任ある業務の遂行と従業員の意識づくり  
「行動規範」の遵守
  - ・ コンプライアンス推進委員会のもと全従業員による企業倫理の徹底  
原子力をはじめとする設備の安全・安定運転
  - ・ 事故防止の徹底と情報公開  
請負会社等と一体となった電気の品質保持
  - ・ 当社・請負会社・メーカーとの一体的推進  
自由化制度への適切な対応
  - ・ 競争ルールの遵守
- (2) 人材育成による企業活力の醸成  
実践教育等による能力の向上と発揮
  - ・ 創造力・実践力のレベルアップ
  - ・ 競争時代での技術力の保持・研磨  
多彩な人材による機動的な課題解決の推進  
社会に役立つ技術研究開発の推進
  - ・ 雷害対策研究
  - ・ 産学官との連携強化  
意識・情報の共有化による職場の活性化
  - ・ 職場懇談会の活用や本支店・部門間交流等による情報共有化  
自主保安・作業安全・交通安全の徹底  
心身両面にわたる健康づくりの推進

### 2. 販売拡大に向けた体制強化

- (1) 自由化範囲の拡大を視野に入れた販売体制の強化  
マーケティング戦略の強化
  - ・ 訪問活動強化によるお客さまニーズの把握  
技術営業の展開と提案力・交渉力の強化
  - ・ 技術部門の人材や役職者の重点投入
  - ・ セールスエンジニアの育成・強化
- (2) 個別提案型マーケティング活動の強力な推進による販売目標の達成  
快適生活をご提案する電化住宅の推奨
  - ・ 新築時における電化住宅の拡大
  - ・ リフォーム時等における電化提案  
ソリューション営業の推進
  - ・ お客さまと一体となったエネルギーコンサルティングの強化  
自治体や関係諸団体と一体となった企業誘致活動の推進
- (3) グループ事業の総合力発揮による販売拡大  
グループ企業の経営資源を活用した収益拡大策の展開  
新規事業の育成
  - ・ プラスチックリサイクル事業（プリテック H15 / 4事業開始）
  - ・ ポータルサイト（ほっくりく）

### 3．価格競争力強化を目指した更なるコストダウン

- (1) 設備・資産効率の向上  
安定供給の範囲内での経年石油火力の廃止
  - ・ 富山火力1号機・3号機，福井火力1号機の廃止資機材調達価額，業務委託費等の低減
  - ・ 仕様見直しや競争入札等の拡大設備保守・運用基準等の見直しによる維持管理コストの削減  
低利用資産の有効活用
- (2) スピード経営と徹底した業務効率の追求  
事業分野毎にトップランナーを目指した業務運営の推進
  - ・ E R P 蓄積データ活用による自律的効率化の推進組織・要員のスリム化や人事・労務諸制度の見直し  
関係会社の強化に向けた事業再編
  - ・ 富山共同火力発電㈱および福井共同火力発電㈱と当社との合併

### 4．循環型社会への取組みなど環境保全の推進

- (1) 地球温暖化防止への対応  
原子力の着実な推進
  - ・ 志賀原子力1号機の安全・安定運転
  - ・ 志賀原子力2号機建設の着実な推進自然エネルギー等の推進
  - ・ 風力・太陽光発電
  - ・ 研究植林省エネルギー活動の推進
- (2) 循環型社会形成に向けた3Rの推進  
[ Reduce(廃棄物の発生抑制), Reuse(再使用), Recycle(原材料としての再利用) ]  
P C B 絶縁油処理施設の運転開始 ( H 1 5 / 5 )  
プラスチックリサイクル事業の開始 ( H 1 5 / 4 )  
オフィス古紙リサイクルの推進  
石炭灰の有効利用推進  
環境セミナーの実施など環境教育の推進

重点事項の推進にあたっては，労使が相協力し，「Power & Intelligence でゆたかな活力あふれる北陸を」の企業理念のもと，総合エネルギー知識産業の実現に向けて，『より動こう・より訪ねよう・より聞こう』の実践により，たゆまぬ挑戦を続ける。

以 上